

指定管理者 期末モニタリングチェックリスト(令和7年度)

総合評価	B	実施日	令和 8年 5月15日
施設名	もとまるパーク	選定方法	公募・非公募(任意指定)
設置目的	公募設置管理制度による民間活力で公園の魅力を高め、指定管理も加えた効率的な管理ともとまるパーク・本巢PAを核とした地域振興および賑わいの創出を図る		
指定管理者名	株式会社チューキョーP&G・株式会社岐阜造園共同事業体	指定期間	10年 (議決を踏まえた上で20年)

総括	B	令和6年度	令和7年度	年度	年度	年度	評価
① 経営分析	自主事業収支比率(%)	78.44 %	86.11 %				A
	【前年度との比較】	—	+7.67 %				
	人件費比率(%)	48.52 %	52.83 %				C
	外部委託費比率(%)	21.29 %	25.37 %				B
	利用者1人当たりの管理運営コスト(円)	392.71	280.63				A
	施設1㎡当たりの利用者数(人)	3.66	4.50				A

※上記の経営分析評価区分(優良:A、良好:B、問題有:C、要改善:D)

②実施事業に関すること	総括	B	一次評価	評価理由等
1	施設の設置目的に沿った事業を実施したか。目標を達成したか	B		効果的な情報発信のためSNS分析を行い、その結果来場者増加に繋がっている。
2	収支計画との整合性はあったか	C		当年度の事業計画と異なる支出があり、予算内で対応したものの次年度計画では再検討が必要である。
3	資格者の人員配置など職員体制が適正に整えられていたか	B		防火管理者など適切な資格者が配置されている。また、イベント開催時などの繁忙期には、職員の勤務体制に無理が生じないように配慮されている。
4	公共性・公平性が保たれていたか	B		要求水準に適合し、特定の団体等に有利な特例はなく、公共性と公平性が確保されていた。
5	改善指示事項や要望が事業に反映されていたか	B		利用者アンケートやSNSを通じた声を踏まえ、要求水準どおりの対応がなされていた。
6	自主事業は適正に実施されていたか	B		自主事業を月1回のペースで実施し、利用者増加と賑わい創出に寄与している。

③経理に関すること	総括	B	一次評価	評価理由等
1	指定管理業務に係る固有の銀行口座が適正に管理されていたか	A		指定管理業務に加えて自主事業業務の口座も開設され、要求水準を上回る管理体制が整備されている。
2	協定に基づいた支出が適正に行われたか	B		要求水準どおり指定管理業務と自主事業業務の支出が分別され、適正に管理されている。
3	指定管理業務と自主事業の会計が明確に区分して管理されていたか	A		要求水準を上回る会計の明確化を図るため、指定管理業務と自主事業の口座を別々に開設し、適切に管理している。
4	帳簿が適正に記載・管理されていたか	B		売上日計および会計処理は、会計専門機関と毎月監査を実施し、指導を受けるなど適切に管理している。
5	帳簿を適正に記載・管理する体制が整えられていたか	B		会計関係書類は、経理担当者と会計専門機関による二重確認を徹底し、適正な管理体制を構築している。
6	現金は適正に管理されていたか	B		現金取扱い帳簿を作成し、現金の厳格な管理と透明性の確保に努めている。

④施設管理に関すること		総括	B	一次評価	評価理由等
1	保守点検・検査・修繕は適正に実施されたか			B	職員による目視点検や専門業者による検査、修繕が適正に実施され、自主的にしている。
2	植栽（剪定、除草、施肥等）、芝生管理、清掃は確実に行われたか			B	要求水準どおり植栽等に関する打ち合わせを毎月実施するなど、適切に管理されている。
3	マスターキー等の管理体制は十分であったか			B	全て鍵付キーボックスで一元管理し、職員への貸与も個別に貸出申請を行うなど、適切に管理している。
4	緊急時の連絡体制は整えられていたか			B	要求水準どおりに緊急時マニュアルを制定し、早期対応が可能な体制を整えている。
5	避難時の対応など、安全性は確保されているか			A	災害時マニュアルを策定し、避難訓練を年2回実施するなど、要求水準を上回る対応を行っている。
6	備品は適切に管理されていたか			B	備品台帳や説明書は適切に保管され要求水準を満たす管理が行われているが、今回備品の紛失が発生したため、紛失防止策を強化し、徹底を期待する。
7	建築物・工作物・駐車場の保全・管理、施設の警備等は適切に行われていたか			B	要求水準どおり日中はスタッフが定時巡回および随時点検を実施し、夜間は管理棟内を遠隔監視システムによる24時間体制で安全を確保している。

⑤サービスに関すること		総括	B	一次評価	評価理由等
1	利用時間の延長など具体的にサービス向上や稼働率等の向上に取り組んだか			B	自主事業を月1回以上開催し、混雑状況を判断した調整池駐車場開閉など、稼働率向上に努めている。
2	苦情等の処理は適正かつ迅速に行われたか			B	苦情対応マニュアルを作成し、担当課への報告を踏まえスタッフ全員で共有し、適切に処理している。
3	苦情等の処理に関する書類は適正に整備・管理されていたか			B	苦情処理対応は個別に記録しており、月次報告で報告されているが、事例を整理するなど
4	ホームページやSNS等でのPRは適正に行われたか			A	イベント情報をSNSなどで積極的に発信し、閲覧数が順調に増加するなど、効果的に運用している。
5	セルフモニタリングは適正に行われたか			B	セルフモニタリングは適正に実施されており、要求水準どおりアンケート調査を実施している。
6	利用者アンケートの結果をサービスの向上にいかしたか			B	苦情や利用者アンケートで得た要望は、実現可能なものから速やかに対応するよう努めている。
7	サービス向上のために職員研修等を実施したか。接客態度に問題はなかったか			B	新人研修用のテキストを独自に作成し、サービスの質を維持するために適切な研修を実施している。
8	経費縮減・費用対効果の向上（費用の最小化）を図る取り組みを実施したか			B	物価の高騰が続くなか、費用対効果を検証して経費縮減の取り組みを推進している。

⑥その他		総括	B	一次評価	評価理由等
1	施設の管理に係る情報の管理や情報公開は適正に行われたか			B	園内清掃などで施設の利用制限を行う際、事前にSNSで周知するなど利用者への配慮がされている。
2	個人情報適正に利用・管理されていたか			B	施設利用申込み時に取得した住所などの個人情報は、社員を含む第三者が閲覧できないよう、適切に保管・管理されている。
3	環境に配慮した事業を推進したか			B	園内で発生したごみは持ち帰るよう呼びかけるなど、環境保護に資する取り組みを実施している。
4	業務実施に必要な保険に加入していたか			B	園内利用者が安心かつ安全に利用できるよう、要求水準に適合した条件で保険に加入している。
5	利用者及び職員の安全管理に関する体制・仕組みが適切に整えられていたか			B	安心安全に施設を利用できるよう、1日5回の施設内安全確認に加え、職員の体調管理チェックや健康診断を実施するなど、適切な体制を整えている。
6	労働法令を遵守し、雇用・労働条件への適切な配慮がされていたか			B	イベントなどの繁忙期を含めた勤務管理を確実に行うとともにサービス低下を防ぐための対策を検討している。
7	地域との連携・協働は図られたか。まちづくりに配慮した事業を推進したか			B	学校や地元関係団体、地域住民などと連携を模索し、地域の賑わいづくりに向けた検討を進めている。
8	市と連絡を密にしていたか			B	連絡網が整備され、市との連絡体制は取れている。

●経営分析の指標と評価の考え方

評価指標	計算方法	評価の考え方
◆自主事業収支比率(%) 【前年度との比較】	①自主事業収支／自主事業収入 ②前年度と比率を比較	自主事業収支比率の前年度比は、事業の収益性や経営効率が改善・維持・悪化しているかを評価する。
◆人件費比率(%)	人件費／支出×100	支出に占める人件費の割合。支出の中で人件費が高すぎないか、抑制しすぎているかを評価する。
◆外部委託比率(%)	外部委託費合計／支出×100	支出に占める外部委託費の割合。外部委託の依存度が高すぎないかを評価する。
◆利用者1人当たりの管理運営コスト(円)	支出／延利用者数	利用者1人当たりに対する管理運営コストが適正であるかを確認。前年度との比較、類似施設との比較などにより効率性を評価する。
◆施設1㎡当たりの利用者数(人)	延利用者数／延床面積	施設1㎡当たりの利用者数を確認。利用促進策の効果やイベント企画力など、類似施設との比較により施設活用度を評価する。

評価区分

評価指標	A（優良）	B（良好）	C（注意）	D（問題あり）
◆自主事業収支比率(%) 【前年度との比較】	前年比5%増以上	前年比±5%以内	前年比▲5～10% 改善の必要性が高い	前年比▲10%超え 管理継続性に深刻な課題あり
◆人件費比率(%)	40%以下 公共性とコスト管理が良好に両立。	40～50% 地域雇用を重視しつつ経営効率も保たれている。	50～60% 人件費負担が高く効率化の余地あり	60%超 人件費過大、経営効率悪化リスク大
◆外部委託比率(%)	20%以下 地元企業を活用しつつ、合理的な範囲で外部委託を活用。	20～35% 外部委託が一定程度あるが、地域貢献とのバランスも適切。	35～45% 外部依存が高まる傾向	45%超 外部委託過多、組織の自律性低下の懸念
◆利用者1人当たり管理運営コスト(円)	400円以下 地元活用や減免条件下でも経費抑制が良好で効率的な運営を実現。	401～600円 コストと地域貢献とのバランスを保ちつつ適正管理されている。	601～800円 管理運営コストが高く、効率化や改善検討が必要"	801円以上 コスト過多で持続可能性に懸念。早急な対策と運営見直しが求められる。
◆施設1㎡当たりの利用者数(人)	4.0人以上 施設を効率的に活用し、便益提供が最大化されている。	3.0～3.9人 適正な利用密度であり、サービス提供に支障がない範囲。	2.0～2.9人 利用率がやや低く、利用促進策の改善余地がある。	2.0人未満 施設利用が低く空間の有効活用がされていない可能性が高い。改善が必要。

●評価の判定基準

①一次評価	A(優良)=協定書、仕様書等の内容を遵守し、定めた水準よりも優れている B(良好)=協定書、仕様書等の内容を遵守し、定めた水準に達している C(課題有)=協定書、仕様書等の内容を遵守しているが、一部課題がある D(要改善)=協定書、仕様書等の内容を遵守しておらず、早急な改善が必要である
②総括	A(優良)=一次評価がすべてB以上であり、かつAが半数以上である B(良好)=一次評価がすべてC以上であり、かつABが半数以上である C(課題有)=一次評価がすべてC以上であり、かつABが半数未満である D(要改善)=一次評価にDが含まれている
③総合評価	A(優良)=総括がすべてB以上であり、かつAが半数以上である B(良好)=総括がすべてB以上であり、かつAが半数未満である C(課題有)=総括がすべてC以上であり、かつCが含まれている D(要改善)=総括にDが含まれている